

「ニイガタ除雪の達人選手権」の開催について

新潟県土木部 道路管理課

1. はじめに

本県をはじめとする積雪寒冷地帯において、冬期の道路交通を確保する道路除雪は、地域住民の生活や経済活動を維持するために必要不可欠な業務です。

しかしながら、除雪作業を担う除雪オペレータの人数は減少傾向であり、かつ若手オペレータの入職が少ないことから、高齢化が進展する状況となっています。

このような状況において、将来の除雪体制の構築が懸念されることから、県では除雪オペレータの担い手確保に関する取組を進めており、その一環として令和2年度から「ニイガタ除雪の達人選手権」を開催しています。

本稿では、「ニイガタ除雪の達人選手権」開催の詳細と併せ、本県の除雪オペレータの現状、担い手確保に関する取組などについて御紹介します。



ロータリ車による懸命な除雪作業（妙高市内）

2. 本県の除雪オペレータの現状

県では毎年、除雪業者にアンケートを実施しており、オペレータの人数や年齢構成を調査しています。平成28年度と令和2年度の結果を比較すると、オペレータ数は120名程度減少し、かつ61歳以上の割合が4ポイント増加（図-1）していることから、高齢化の傾向が強まっていることが考えられます。また、30歳以下の若手オペレータの割合はほとんど変化がないことから、建設業に入職した若手がオペレータを辞退している、または新たなオペレータが増えていないことが推察されます。

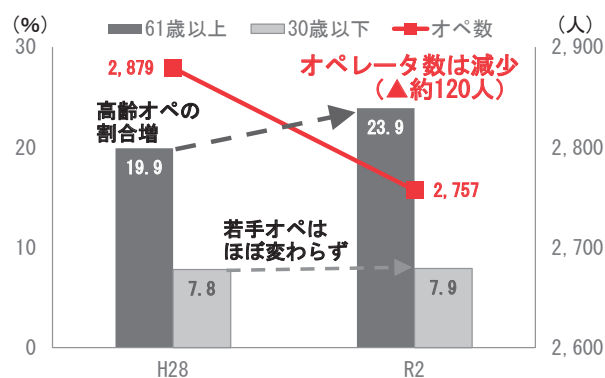


図-1 本県管理道路を除雪するオペレータの人数と年齢構成

3. 「ニイガタ除雪の達人選手権」の企画

前述のとおり、今後もオペレータ数の減少傾向が継続した場合、除雪体制の構築が困難となることから、将来にわたって持続可能な除雪体制を構築するためには、オペレータの担い手の確保に向けた取組が喫緊の課題となっています。

この課題に対し、本県の若手職員が新たな視点から検討を行い、「除雪の重要性を県民にもっと知って

もらいたい、大型重機を手足のように扱うオペレータの除雪技術を間近に見てもらいたい」などの思いを踏まえ、令和元年度に除雪技術を競い合うイベントの企画を立案し、令和2年度から「ニイガタ除雪の達人選手権」として開催しています。

4. 選手権の開催状況

(1) 第1回（南魚沼市）

記念すべき第1回選手権は、日本有数の豪雪地帯で知られる南魚沼地域（南魚沼市、湯沢町）で開催しました。

南魚沼地域では、除雪作業に対する理解促進やオペレータのモチベーション向上を目的として、国、県、市町及びNEXCO 東日本が合同で「除雪出動式」を開催していましたので、この出動式と選手権を同日開催することで、両方のイベントが相乗効果的に盛り上がることを期待しました。さらに、未来の担い手となりうる地元の保育園児や小学生生徒を出動式に招待し、式の後には選手権を観戦してもらえよう、平日開催として学校関係者と調整を図りました。

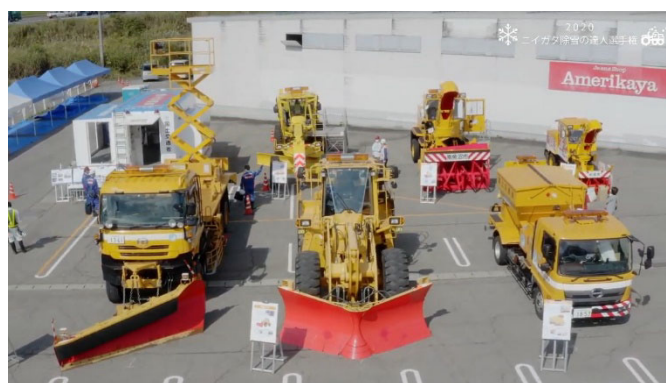
また、子どもたちには会場に展示した除雪機械に試乗してもらい、除雪機械に興味を持ってもらうことと併せて、作業中の機械の死角などについても説明し、作業中の事故防止に関する啓発活動も行いました。

選手権の競技は、風船割り、スラローム、砂ケーキ落とし、車庫入れの4つの種目を総合タイムで競い合い、個人及びチームの成績で順位付けを行いました。チームは各機関の道路除雪を受託する業者で構成し、国、県、市町、NEXCO 東日本の5チーム、計15名のオペレータが競技に参加し、初代優勝チームは「Rice Powers（ライスパワーズ、南魚沼市除雪受託業者で構成）」でした。

会場は、関越自動車道六日町ICに近い六日町イオン様の駐車場をお借りすることができ、買い物客など、平日にもかかわらず500名を超す多くの方々に来場していただきました。



南魚沼地域合同除雪出動式の様子



展示車両の様子



競技② スラローム



競技③ ぎりぎり砂ケーキ落とし

第1回選手権の競技の様子

(2) 第2回（胎内市）

第2回選手権は、新発田地域（新発田市、胎内市、阿賀野市、聖籠町）で開催しました。

第2回の実施競技は、第1回出場オペレータからの競技難易度に関する意見等を踏まえ、第1回から一部を変更し、玉入れ、スラローム、タイヤ運び、車庫入れとしました。また、選手権と併せて、会場に隣接する（一社）北陸建設アカデミー様の施設・器材を活用し、ドローン操作や動く除雪機械の乗車など、体験イベントを同時開催しました。

日曜開催ということもあり、親子連れを中心に予想を大幅に超える約1,200人の方々に来場いただきました。

これまでの2回の開催を通じて、選手権を観戦した来場者からは「除雪オペレータのスゴ腕が実際に披露され、除雪作業が注目される機会の一つになったことと思う」や「継続して開催してほしい」などの声や、参加したオペレータからは「家族を含めたくさんの方々に注目され、参加できてよかった」といった意見が聞かれており、今後も継続して取り組むことで、除雪作業に対する県民の理解促進やオペレータの方々のモチベーションの向上、さらには技術力の確保につながるのではないかと考えております。



イベント会場の様子



除雪機械試乗体験の様子



第2回選手権の競技の様子



表彰式の様子



(3) 第3回は十日町市で開催

令和4年度に開催する第3回は、4年ぶりに「大地の芸術祭」を開催中の十日町市で実施する予定としており、開催に向け、現在関係機関と調整を進めているところです。今年度も楽しく、魅力あるイベントとなるよう努めたいと思います。

5. おわりに

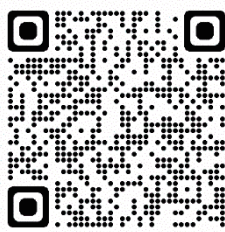
除雪オペレータに限らず、人材の確保・育成は一朝一夕になしえるものではありません。関係者が危機感を共有し、ICTの活用など先を見据えた取組が必要と考えますが、令和2年度や3年度のような大雪の対応を振り返ると、今すぐ行う取組も必要と考えられます。

今後も、様々な取組により安定的な冬期道路交通の確保に取り組んでいきます。

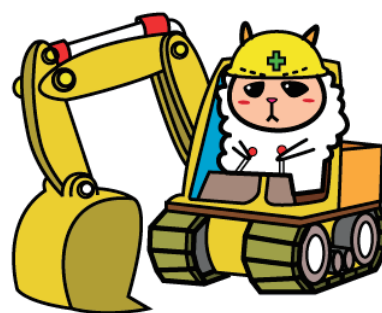
最後に、第1回と第2回の選手権開催に御協力いただきました関係機関の皆様に感謝の意を表します。



第3回選手権の告知



YouTubeにて選手権の動画を公開中



こめゆきくん
(新潟県土木部のキャラクターです)